新成人「二十歳の誓い」

本日は、私たちが新成人としての第一歩を踏み出すにあたり、このような盛大な式典を催していただき、誠にありがとうございます。

私たちの人生の先輩でもある仲田一彦市長やご来賓の方々からいただいた励ましや、お祝いの言葉、大変嬉しく思っております。

新成人を代表いたしまして、心よりお礼申し上げます。

幼い頃、「二十歳」と聞くと大人というイメージがありました。「早く大人になって自分でなんでもできるようになりたい」とずっと思っていました。

あの頃抱いた「二十歳」に、私は一歩でも近づけたのでしょうか。成人式を迎えるにあたり、自己を見つめ直してみました。

この二十年間で成功や失敗、様々なことを経験してきました。

小学校の頃、私は決してこのように人前に立つような子ではありませんでした。人の前で話すときには声が震えたり、友達がいなければ何もできなかったりと、非常におとなしい子でした。

それでも運動会や音楽会などの行事が大好きで、生きて行く上で必要な「他者と協働することの大切さ」を自然と学んでいた気がします。

中学・高校時代はとにかくもがき苦しみました。

中学3年生の夏、私はどうしても行きたい学校があったため、必死で受験勉強に取り組みました。「合格」のためなら何を捨ててもいい、そう思っていました。

そんな考えのせいで勉強時間が増えるにつれ、友人とのコミュニケーションが減り、孤独な戦いが続きました。友達と遊ぶ時間も、睡眠時間も、食事をする時間でさえ惜しく思うほど、すべてを受験勉強にささげました。受験による不安、孤独によって精神的に追い詰められ、自分ではどうしようもできなくなったこともありました。泣きながら保健室に駆け込んで先生に助けてもらったこともありました。

そのように必死に戦った受験でしたが、私の願いは叶わず第一志望の学校に行くことはできませんでした。

しかし、最初は不本意で入学した高校でしたが、部活も勉強も学校行事も何もかも全力で取り組んでいるうちに、「本当にここに来てよかったな」と思えるようになりました。

そして、何よりも素晴らしい先生方と出会うことができ、本当に充実した高校生活を送ることができました。

私は中学・高校の六年間で「努力は決して裏切らない」ということを実感しました。ある目標に対して頑張っても、その時に願いが叶うとは限りません。しかし、その努力は絶対にどこかに繋がっていると思います。それが何年後になるかはわかりません。一年後かもしれないし、十年後かもしれない。

でも、「諦めなければ、いつかは輝ける」そう信じて歩み続けています。

私は今、神奈川県にある、慶應義塾大学でアナウンサーになるという夢に向かって全力で走っています。受験勉強と違って、答えのない道を歩んでいると不安が募り逃げ出したくなる時もあります。

そんな時でも、家にはおかえりと出迎えてくれる人はいません。「うん、うん」と頷き、愚痴を聞いてくれる両親もいません。どんなに疲れて帰っても、掃除も洗濯も料理も全部自分でやらなくてはいけません。一人暮らしをして、家族の偉大さを心の底から感じました。

でも、私には帰る場所があります。故郷三木には私の大好きがいっぱい詰まっています。

「しんどくなったらいつでも帰ってきていいんやで」と言ってくれる家族。卒業してからもずっと見守ってくれる先生方。久しぶりに会っても何一つ変わりなく笑いあえる友達。かつてはたくさんの悩みを抱えながら歩いた通学路。踏切の音。夕焼けどきの真っ赤な空。

その全てが、三木で育ち感じた1コマ1コマを、思い出させてくれます。故郷三木は私の誇りです。三木でたくさんのことを得られたから今の私があります。

幼い頃描いた「二十歳」になれているかはわかりません。自分一人ではできないこともまだまだたくさんあります。

しかし、これからは大人として自分なりに、一人でも多くの人に愛を与えられる人になりたいです。私がこれまで三木でたくさんの愛を受けて育ってきたように。

これから先、ぶつかったことのないような高い壁に出会うこともあると思います。そんなときは自分を信じ、人を信じ、最後まで諦めずに進んでいきます。

かつて恩師の先生がおっしゃっていたように、「自分の人生を決めるのも、変えるのも、いつも自分次第だから」

最後になりましたが、大人としてこれからの人生を精一杯楽しみ、力強く歩んでいくことを誓い、新成人代表の挨拶といたします。

平成三十年一月七日
新成人代表　前田さつき